



陽気だより

No85

2014.4.15

●ホームページからも「陽気だより」

最新号・バックナンバーをご覧ください

<http://yotokusha.com/>

図書出版 養徳社 〒632-0016 天理市川原城町 388 TEL 0743 (62) 4503 / FAX 0743 (63) 8077

養徳社

検索

昭和32年7月号 から

「陽気」は、昭和24年4月の創刊、今年で65年を迎えます。過去の記事から、その歩みの一端を振り返っていきます。

巷にひろう

スポーツマンシップ

岡島藤人



(昭和三十二年当時)

本部准員・養徳社社長

ケンブリッジとオックスフォードのそれにも似たる伝統と歴史をもつ、我が日本の早慶ボートレースも、本年は意外な珍事から早大クルーが勝利を博するに至った。

両大学の技量が伯仲しているだけに、全国のボートファンの血を沸かせる年中行事の一つである。両大学ともに負けられぬレースであることはいうまでもないが、慶応としては一回負け越しているだけに、今年は何としても勝利を得たい一戦であったに相違ない。自他共に今年は慶応の勝利を予想していた。

どんどん水がたまってくる。あらゆる知恵を絞って水をかき出したが、水をかき出す何の道具も用意していないために、シャツや手でいかにかき出しても、とうてい及びもつかない。無念にも駒形橋付近にさしかかった時に、慶応ボートはついに沈没してしまった。

一方、早稲田クルーは、かかる万一の事態を予想して六人こぎの練習をしたり、水をかき出すアルミ缶を用意したりしていたために、六人がこぎ二人が水をかき出すというような非常事態の作戦が見事成功して、沈没の憂き目をのがれてゴールにたどり着くことが出来た。作戦が見事的中したというところである。

慶応クルーは、いかなる事態に出くわそうともオールに全力を傾注して、一挺身たりとも早くゴールインせねばと心得たに相違ない。早稲田クルーは、どんな事態に遭遇しても、とにかくゴールまでボートを持つてゆくことが大切だと考えたのであろう。

この考え方の相違について、何れが是で何れが非であるかをここで議論しようとは思わぬ。両クルー共に自己の信念に基づいて最高度の努力とスポーツマンシップを発揮したことには相違ない。おそらくこれを直接観ていた観衆の目には、勝敗を超えたあついても、筆者の如き病床にあってラジオの実況放送を聴いているだけに手に汗を握らざるを得なかった。

審判はついに早稲田に勝利を宣した。審判としては当然の判決を下したのである。然るに早稲田側は自らの作戦勝ちを誇るかと思いのほか、この勝利の判定を承知せず再試合を申し入れたというのである。何たるうるわしいスポーツマンシップであろう。

これを耳にした慶応側は再試合を受け入れるかと思いのほか、これもまた自らの不注意から艇を沈め、早稲田側に後味の悪い勝利をさせたことは実に申し訳ないことであつたと深く詫びたというのであ

る。勝つことだけがスポーツの目的のように思われている今日、この両大学のスポーツマンシップは、何たる教訓を与えたことであろう。ボートレースには勝敗はあつたかも知れぬが、そのスポーツマンシップにおいては両者共に甲乙なく心から賛美していいのではなからうか。近來の特筆すべき快事であると思う。

スポーツも発達するにつれて、けだし複雑なる作戦が考究せられ、相手の虚をつくこと、相手の裏をかくことが作戦の優なるものとして、駆け引きと駆け引きの巧拙のみに腐心するに至るものも止むを得ざることも知れぬが、スポーツ精神の復元ということに思いを致すと、決して勝つことだけが目的ではない、勝敗の奥に双方に通ずる美しい人間精神美の存することを忘れてはならぬと思うのである。

遺憾なく美しいスポーツマンシップの発揮せられたスポーツとして、この早慶戦の如きは、いつまでも記憶から去ることなく人の心を浄化するものである。今、国技館において大相撲

の夏場所が開かれている。長い間にできた相撲協会の制度が問題になって、今日それが改められようとしている。おそらく新任の時津風理事長は近く万難を排して正しい相撲道の精神に基づいた改革をせらるることであろう。

誰が悪いというのでもないが、人間は無意識のうちにイージーゴーイングに流れ易い。いつとはなしに最初の精神を逸脱して、とんでもない処へ行きついでいることがある。これは決して相撲道だけではない。スポーツの世界だけではない。あらゆる人間の社会にはそれが当てはまる。常に反省の大切な所以はここに

ある。真柱が、教祖七十年祭を迎えるに当たって、特に復元ということを諭されるが、これも元一日の精神に目覚めなければならぬということと言われたのはいうまでもない。戦後、世界の科学は一大進歩を見るに至った。破れたりといえども、我が日本も戦後十年を経過するに至って、戦前には比較ならぬ文化と文明の波が押し寄せてきた。まことに歎ぶべきではあるが、ま

た一面静かに反省するとき、果たして今日の文化、今日の文明というものは正しいものであるか、これでいいのであろうか。

科学の文明、物質の文化こそ進んだとはいえ、決してこれが正常な文明でも文化でもないということに目覚めねばならぬ時に至っているのではないか。

科学の文明は恐るべき原水爆の時代を生むに至った。物質の文明はオートメーションの時代を招来するに至っている。今後ともこうした文化、文明がどこまで進展するか計り知れざるものがある。

あえて科学を否定し、物質を無視するのではないが、これを裏付ける精神文化については、何人がどこまでこれを真剣に考えているのであろうか。

ない世界、ない人間を創造せられた実の神の思惑は、この世界、この人間を創造せられたのは、人間が相共に互いに立て合い助け合って、陽気ぐらしをするのを見て神も共に楽しみたいというのが、元始まりの精神であると教祖は教えられたのである。

人間思案の、作戦の闘争に明け暮れている今日の文化文明は、果たして陽気ぐらしの彼岸に到着する道であろうか。いかにスポーツが発達し勝敗の作戦が巧妙になり、技量が進歩したといえども、その奥に勝敗を超えた尊いスポーツマンシップのあることを忘れてはスポーツの意義さえ失われる如く、物質の文化文明がいかに発達しようとも、それを裏付ける精神文化の進歩と発展を忘れては、人間生活の意義さえ失われてしまうことになるのではないか。

早慶のボートレースの前後の実況を聴かされて、反省と思索の思いがとめどなく湧き出るのである。

「改訂増補」
こころの道
藤田欣吾 著
(前分教会前会長)
定価=1,296円(8%税込)
送料200円
※ご注文は前払いとなりますので定価に送料を加算して郵便振替にてご注文下さい
図書出版養徳社 業務部窓口 ☎0120-920-398

マンガ『おびや許し』
画：金巻とよし 予価：二百円
七月発刊に向けて
鋭意執筆中



『陽気』 定期購読



お 店まで買いに行くのが大変。忙しくて購入し忘れた。定期購読はそんな手間を省きます。毎月20日前後にご自宅宛に発送いたします。

(例：5月号は4月20日)

まずはお問い合わせください。

定期購読料金 1年分…3,420円(送料込)

購読に関する問合せ先

☎0120-920-398 養徳社 業務部窓口

Facebook で最新情報をチェック! <https://www.facebook.com/yotokusha>

この「陽気だより」を支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用くださいますよう、お願い申し上げます。
 <書籍・陽気のご購入方法について>前払いでお願いしております。お近くのゆうちょ銀行に備え付けの振込用紙をお使い頂き、[住所、氏名、電話番号、書名(陽気希望月号)、冊数]を明記の上(振替口座番号00990-3-17694番 加入者名(株)養徳社)へご送金ください。手数料はお客様負担となります。ご入金を確認後、速やかに商品を発送させていただきます。ご不明な点は養徳社までお問い合わせ下さい。フリーダイヤル0120-920-398 養徳社 業務部